

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	情報通信と符号化		
英文授業科目名	Introduction to Information Theory and Coding		
開講年度	2006年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科		
担当教官名	川端 勉		
居室	西1-204		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kawabata@ice.uec.ac.jp	<a href="http://www.w-one.ice.uec.ac.jp/jp/kawabata/index.html">http://www.w-one.ice.uec.ac.jp/jp/kawabata/index.html</a>

<p><b>【主題および達成目標】</b></p> <p>情報通信工学を特徴づける重要な概念として“符号化”がある。          情報源の性質、通信路の特性などに応じて（信号やデータから冗長な部分を除いたり、雑音のために情報が壊されないようにしたり、敵には解読されないようにしたりして）、元の情報の流れを別の形の流れに加工することを符号化という。          この符号化の考え方は情報通信システムの至る所に浸透しており、このことによって、システムの効率性、信頼性、安全性が計られている。          この講義では“符号化”のいくつかの例題を提示し、その考え方を学ぶ。これはまた、3年次以降の情報通信工学の選択科目、たとえば、情報理論、符号理論、信号処理論、通信システム、暗号理論、等への準備ともなっている</p>
---

<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>応用数学，離散数学，線形代数学第一</p>
---

<p><b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b></p> <p>同時に講義されている，論理回路，確率論の履修は講義を理解するうえで有用である。</p>
--

<p><b>【教科書等】</b></p> <p>(例)          教科書：なし          参考書：なし</p>
---

--

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

1. デジタル通信システムのモデル
2. アナログ信号のサンプリングと量子化
3. デジタル変復調（多相PSK）
4. 誤り訂正符号入門
5. データ圧縮入門（Lempel-Ziv法）

(b) 授業の進め方：

授業はアナログとデジタルをつなぐ前半（項目2，3）とデジタルに特化して典型的な符号化の考えを例示する後半（項目4以降）に大別される。前半部では応用数学の知識が必須であり，この部分の終了後中間試験を行うこともある。後半部の各項目は適宜取捨選択が行われる。この部分では離散数学，線形代数学第一の知識が有用である。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

試験，および出席・宿題をほぼ7対3の割合で総合評価する。川端は中間試験をおこなう。その場合、また中間試験・期末試験の割合は可変であるが，ほぼ3対4の割合とする。

(b) 評価基準：

講義の基本的理解ができていることをもって最低達成基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

随時、ただし電子メールで事前に約束をとること。

【学生へのメッセージ】

知識を与えることが目的ではありません。情報通信における基本的な考え方を実際に用いられている符号化を例にとってやさしく教えますので，楽しみにしてください。

【その他】

--